

雑司ヶ谷研究 その2

——御会式開催支援における人の繋がり——

Zoshigaya Study 2
—People's Network for Supporting *Oeshiki*—

住居学科 奥井 麻子 葉袋奈美子
Dept. of Housing and Architecture Asako Okui* Namiko Minai

抄 録 御会式は、雑司ヶ谷で実施される法明寺の宗教行事である御会式は、宗教行事ではあるものの、地域のお祭りとして捉えられている。20以上の組織が法明寺のある雑司ヶ谷という町を超えて結成されており、寄付（奉納）をする人も広範にわたる。奉納は、事業所ばかりでなく、個人によっても数多く行われている。つまり、大都市の中の居住地であっても、地域の一員としての貢献をしようという人がいることがわかる。

キーワード：御会式、雑司ヶ谷、コミュニティ、お祭り、近隣

Abstract *Oeshiki* is a distinctive memorial service for the founder of the Buddhist sect named *Nichiren Shu*. At Homyoji Temple in Zoshigaya, *Oeshiki* is not only a religious practice, but also a community festival that involves over twenty groups from Zoshigaya. Over 5,000 people participate in the march from Ikebukuro station on the last day of *Oeshiki*. The practice of receiving donations from shopkeepers and people from within and outside the area enables a large number of people to participate.

Keywords : *Oeshiki*, Zoshigaya, community, festival, neighborhood

1. はじめに

都市部における人間関係の希薄化が問題として指摘されているが、かつての隣組のような組織を無理やり作ることが歓迎されているわけではない。新たなコミュニティの結びつき方を模索し、実践を積み重ねることで、従来の農村型社会にあったような生活と生業とが一体化したようなコミュニティではなく、新たな形態のコミュニティの展開の実現への手がかりを得ることができのかもしれない。

本稿は、雑司ヶ谷の住空間を様々な角度から分析しようという雑司ヶ谷研究の第二報である。東京都豊島区の雑司ヶ谷において行われている御会式の概要を紹介した上で、その運営に係る人のネットワー

クについて整理をする。

法明寺の御会式の研究については、大正大学の弓山等による報告*¹⁾があるものの、その運営にかかわる組織や人の繋がりについての研究は行われていない。また雑司ヶ谷地域については、山崎らによる鬼子母神信仰と街並みとの関係にかんする研究³⁾や、筆者らによる路地に関する研究⁵⁾があるが、密集市街地であるこの地域の居住環境の実態は、まだまだ解明されていない。既往の研究でも指摘した通り、雑司ヶ谷は木造密集市街地として、住環境の改善が必要であると同時に、雑司ヶ谷の魅力は狭い路地と伝統的な行事が続いていることによる景観の楽しさや行事の豊かさ等がある。筆者らによる一連の研究は、雑司ヶ谷という住環境を様々な角度から

* 三井ホーム株式会社

考察することにより、個性あるまちの形成について一考を投じるものである。本研究は中でも、御会式を通した人の繋がりを、関係組織同志の繋がりに整理をし、都市型コミュニティの中で人の繋がりを維持・形成するための基礎的な知見を得ることを目的とする。

具体的には、御会式の開催に向けた準備について参与観察を行い、御会式にかかわる組織同志の関係を整理する。御会式の運営については、法明寺住職へのヒアリングや、御会式連合会会長へのヒアリングを通して確かめた。更に御会式への寄付(奉納)をする人・組織の名称を御会式期間中に設置された掲示を通して確かめ、地域内でのネットワークの広がりを確認する。

2. 雑司ヶ谷にかかわる住民組織

2.1 雑司ヶ谷の住環境の概況

雑司ヶ谷境界は、法明寺・鬼子母神への参詣道として、江戸時代より参道に商業施設等が立ち並び、行楽地的な位置づけにあった。周辺は田畑であるが、不忍通りを経て護国寺方面を含め江戸城に向かう南東方面には武家屋敷がある地域でもあった。法明寺は、真言宗の寺として810年に威光山として開かれたが、1312年に日蓮宗に改められ、現在に至る。雑司ヶ谷は鬼子母神堂が観光地としても人気の場所であるが、法明寺の付帯施設である。鬼子母神信仰は、安産や子供を守る神、信者を守る守護神として平安時代から信仰のあるもので、日蓮上人は特に鬼子母神を大切にされたこともあり、日蓮宗の寺院に鬼子母神をまつお堂が設置されていることが多い。雑司ヶ谷の鬼子母神は、1561年に現在の目白台にある田より掘り起こされ、1578年より現在の場所に祀られている。お堂は、1664年に建立されたものから拡大・修復を経たもので、東京都有形文化財として指定されている。鬼子母神堂へ向かう表参道のケヤキ並木は樹齢400年以上になるものもあり、東京都の天然記念物に指定されている。参道沿いには商店が多く、特に並木ハウスという昭和8年に建てられた木造2階建のアパートには、昭和29年から3年間漫画家の手塚治虫氏が暮らしたことがあり、修復等をして、店舗や豊島区観光協会の雑司ヶ谷案内処として利用され、観光の拠点ともなっている。

鬼子母神堂の境内には、1712年に大鳥神社が建立された。現在は少し離れた場所にあるが、9月の祭り

は、地域の一大行事である。このような行事への一時的参加者は、観光地として雑司ヶ谷を訪れている。

下町的情緒のある雰囲気を受け身の観光としてだけでなく、積極的に楽しみたい人も多い。雑司ヶ谷を好んで居住地にするという話もよく耳にする。また“わめぞ”という早稲田・目白・雑司ヶ谷の古本屋のグループでは、定期的に鬼子母神の表参道を利用して、“みちくさ市”という一般の人でも参加できる古本フリーマーケットを開催し、定着しつつある。“手創り市”という市も、毎月、鬼子母神堂や大鳥神社の境内を利用して行われている。地下鉄の開通に伴い、商店街では賑わいが増すことを期待している。

一方で、既往研究にも示した通り、狭隘道路・行き止まり道路が数多くあり、多くの木造既存不適格住宅が立ち並び、防災上大きな問題を抱えている。環状5号線の建設も進んでおり、雑司ヶ谷の真ん中を大きな街路が走ることになり、既に住宅の立ち退き移転は終了している。環状5号線に空間的には雑司ヶ谷という町の連続性が断たれることにはなるが、それを乗り越える地域の繋がりをいかにするのが、この地域の一体性を維持するポイントであろう。

3. 御会式の概要

御会式は、日蓮宗の宗教行事の一つであり、日蓮上人が入滅をした10月13日前後に、全国の日蓮宗の寺院を中心に行われる法要の行事である。池上にある本門寺の御会式には、日蓮上人が入滅した場所でもあることから、全国から数多くの講中が参加をし、35万人の出入があると言われ、地域の大きなイベントとなっている*²⁾。他の寺での御会式は全国各地のお寺で日蓮上人の命日に近い週末等に行われる行事であるが、少しずつ日程がずらして行われる。信徒団体(講中)が、縁のある寺の御会式に参詣するなど、交流がある。

御会式では、講と呼ばれる信徒のグループ毎に、万灯と呼ばれる花飾りを沢山つけた明かりを中心に、練り歩きを行う。万灯の周りでは、団扇太鼓を鳴らしながら大勢の講のメンバーが、声をそろえて掛け声をかけ続ける。列の先頭には纏を持った人^{まとい}もいて、威勢よく纏を振り、賑やかにお題目を唱えた集団が、美しい万灯とともに練り歩くことを、大勢の人が見に来るお祭りの行事となっている。そも

そも日蓮上人の法要ではあるが、悲しみ悼むというよりは、日蓮上人の教えに従って活発に法華経を唱え、威勢よくお題目を唱えていることを示す場とされていることから、賑やかなお祭りのような場となっている*³⁾。

雑司ヶ谷にある法明寺の御会式にも、多くの人が参加し、観光客も多い。鬼子母神境内及び表参道の櫛並木沿いに、数多くの露店が並び、祭りのような雰囲気となる。毎年10月16日～18日に開催され、3日間で30万人の人出があるとも言われている。

本門寺とは異なり、幾つかの講が遠隔地からも参加するが、地域に密着した講が大多数を占める。

御会式が近付くと、地域内には講毎にお借り屋を建て、その中に万灯と呼ばれる、柳の枝に花を連ねた装飾のされている灯が設置される。講のメンバーは、その万灯の周りに集まり交流をし、決まった時間になるとその万灯を移動させ、練供養に参加する。練供養は表1に示すように三日間とも異なる場所を練り歩く。各講社が順に列をつくって歩く練供養は17日と18日に行われる。日蓮上人の法要で

表1 各日程毎の行事内容

16日	各講は地域内での練り歩きを行い、鬼子母神に参詣する。講社のメンバーや奉納者の家を巡り歩く。
17日	護国寺に近い清土鬼子母神（お穴の鬼子母神）より出発して、不忍通り、目白通りを講中が順に練り歩き鬼子母神堂及び法明寺に参詣する。7時半頃に先頭の講が出発をし、8時頃から鬼子母神での参詣が始まる。20講社が参加し、予定数として報告されている練り歩き参加者数は2850人である。
18日	池袋の西武百貨店前より出発して、明治通りから目白通りを講中が順に練り歩き、鬼子母神堂及び法明寺に参詣する。7時頃先頭の講が出発し、7時半以降に順次鬼子母神堂への参詣が始まる。地元の講社ばかりでなく、立正佼成会を含む他の地域の講社も参加をする。この日が最も盛大に行われ、見物客も最大となる。最後の講社が参詣を終わるのは、夜中にかかるようなこともあるという。



a) お借り屋



b) 明治通りの行列と見物客



c) 若い人の参加が多い



d) 狭い参道の屋台の間を練供養の列



e) 近隣の事業所の宴会



f) 講社の受付場所

図1 お会式の様子

あることが主たる目的であるので、練行列をし、鬼子母神堂及び法明寺本殿に参詣することが主たる目的である*4)。しかし、練供養は、多くの人が見物に訪れる観光的な行事となっているのが実態であり、寺の住職が話すように*5)、特に日蓮宗への信仰を常日頃は持たないような人も、数多く参加する。練供養では、講毎に念仏を唱えながら太鼓をならし、纏や万灯を振る。太鼓は各自の所有物であり、講を通して購入する人が多い。纏や万灯は、講毎に用意されている。大きさやデザインには様々なものがあり、中にはいずれかしかない講もある。万灯は、もともと日蓮上人入滅にあたって、境内の桜が季節外れに咲いたという言い伝えからつくられるようになったもので、纏は江戸時代に火消等のグループが参加するようになってから使われるようになったと言われる。いずれも、若い力のある人がいないと、十分にできないために、多くの若者が地域から勧誘される場ともなっている。

なお万灯は、桜の花を見立てた、和紙でつくられるものであるが、柳の枝に付けて飾られる花飾りは、御会式終了後には幾つかに切って、奉納者等に縁起物として配布される。

4. 御会式における人の繋がり

4.1 練り歩きへの参加者数

御会式の大イベントである、17日及び18日の練り歩きに参加者数について整理をしたものが表2

である。正確な人数は、把握されていないが、この表には、御会式連合会に提出をされている練り歩きへの参加予定者数である。実際にはその場での飛び入り参加や、練り歩き終了後の子供達に配布されるお菓子や、宴会を楽しみに、当日の飛び込み参加者も多いとのことであり、届け出た人数よりもはるかに多くなる講が多いとのことである。

17日はお穴の鬼子母神からの練り歩きで、参加は20講社であり、18日は池袋駅前からの練り歩きで、地元講社がこの表にある25講社で、更に30講社ほどが遠方講社として他地域から練り歩きに参列する。遠方講社は練り歩く人数も多くなく、練り歩きも池袋駅前からではなく、途中(図5参照)からであり、信仰心に基づく参詣である。表3に示す通り、全部で5000人かそれ以上の人々が歩く一大行列であり、特に18日は、7時に先頭の講社が池袋駅前を出発して、最後の講社が動き始めるのは9時頃になる。最初から練り歩きに参加する人ばかりではなく、特に小さい子供連れの人々は、列の途中から

表3 2010年御会式の練供養参加講社数

	遠方		地元		合計	
	講社数	人数	講社数	人数	講社数	人数
17日	0	0	20	2,840	20	2,840
18日	27	722	25	3,650	52	4,372

御会式連合会資料等より

表2 17日及び18日の練り歩き順及び参加予定数

講社名	17日		18日		講社名	17日		18日	
	順	人数	順	人数		順	人数	順	人数
藍鼓	10	30	22	130	千登世若陸	13	100	5	120
青葉陸会	12	150	25	150	東部陸会	1	100	21	250
東通り妙法講			6	200	燈友会	7	150	19	200
鵬 輦	11	200	15	100	波羅門	16	50	10	30
表参道陸会	15	200	11	300	東池母神会	9	150	17	200
鬼熟連	17	30	3	120	三嶽中島講	20	100	12	200
鬼神太鼓司陸会			8	50	南池袋一若葉陸	5	100	23	100
源太連			20	120	向原講祭龍会			2	30
紅嶺	4	30	13	250	目白台陸会	2	100	16	150
雑二講	19	300	18	50	目白陸鬼神会	6	300	24	200
大門宮元講	8	250	9	70	目白陸商工陸	18	100	4	200
高田南陸	14	250	14	150	立正佼成会			1	250
高田若陸	3	150	7	30					

御会式連合会打合せ資料より作成

表4 対象地域の人口
平成22年10月1日現在

	世帯数	人口	増減*
東池袋5丁目	2,614	4,226	-51
南池袋1丁目	854	1,209	-12
南池袋3丁目★	1,116	1,830	-62
南池袋4丁目★	768	1,369	25
雑司が谷2丁目★	1,594	2,905	42
雑司が谷3丁目★	1,217	1,916	10
高田2丁目	1,612	2,878	201
合計	9,775	16,333	153
主要4町目☆	4,695	8,020	15
豊島区合計	145,420	246,210	126

*人口増減は前年同日比、☆主要4町目は★印の4町目、豊島区発表 住民基本台帳・外国人登録者数合計より作成

加わる人も多く、境内に着く頃には、歩き出しよりも、人数がかなり増えていると言う。

この人数を、表4に示すお借り屋が多く設置されている、南池袋3丁目、4丁目、雑司ヶ谷2丁目、3丁目の住民台帳上の人口及び外国人登録者の人口を合計した数が8,020人という数値と比較すると、地域のかなり多くの人が、この参列に何らかの形でかかわっていることが伺われる。勿論上記以外の居住者や、住民登録をしていない居住者、また町外からの参加者が数多くいることも確かではあるが、非常に多くの住民がかかわった行事であると言える。

4.2 講社内の交流

御会式に係るメンバー構成を整理したものが図2である。講元と呼ばれる講のリーダー的役割の人を中心に、準備が進められる。講元は世話人、及び会計等を担う人等を含めた中心的メンバーと協力しながら、講毎の御会式に向けた準備を進める。講は正式にメンバー登録をしたメンバーがいる他、当日のみ参加をして各講の練り歩きに参加をする人も数多くいる。これらの人数を合わせたものが、既出の表2に示される参加予定者数である。参加する人については、講毎に太鼓の練習を行ったり、衣装をそろえる等、事前の打ち合わせや連絡を多少取り合う他、当日は長時間をかける練り歩きやその後の食事会で交流をしている。

多くの人にとっては御会式の直前の準備にしかか

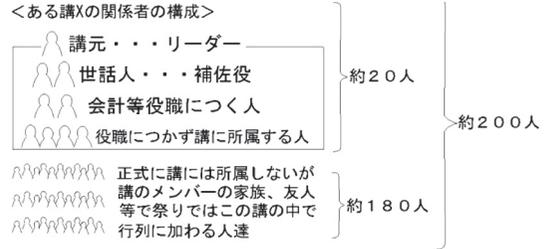


図2 講社内の組織形態概要

かわらないが、万灯づくりや太鼓の練習等は、多くの人が参加でき、お喋りをしながら交流の場となっている。特に太鼓の練習については、中高生をはじめとした若者が中心になって年少者への指導を行う場であり、多世代が御会式という行事への準備にかかわる仕掛けがつけられている。

4.3 御会式にかかわる組織

図3は御会式に直接かかわる組織を整理したものである。御会式の運営のうち、寺での参拝に直接かかわることを除いた、練り歩き等を中心とした調整については、御会式連合会が中心になって行っている。御会式連合会は、地元の21講社の代表者からなる組織で、法明寺と密な連携をとりながら、運営内容を決めていく。

御会式当日の練供養の調整が最も重要な仕事で、警察や消防との連携も欠かせない。大勢の人が集まる場を安全にするための警備会社への依頼も行う。地元出身の鳶職も警備には協力することとなる。また、連合会では、当日の様子を撮影した写真コンテストも開催しており、御会式を地域の行事として盛り上げることに貢献している。

御会式当日には、屋台が沢山出るが、近隣商店街は、この日に合わせた売り出しや品ぞろえを意識して、御会式への来客へのサービスを行う店もある(図4)。屋台は鬼子母神境内及びケヤキ並木の参道に合計百店舗ほどが出る。そのうち7割²⁾が飲食店であったとの報告もあるように、普段は閑静な住宅地としての様相が強く、それほど飲食店が多くない地域で、多くの来場者を受け入れるためにも欠かせない役割であると言える。

地元住民も、各世帯で来客をもてなすばかりでなく、小学校PTAがパトロールを行う等、地域全体での協力のもとに、大勢の人が安心して楽しむこと

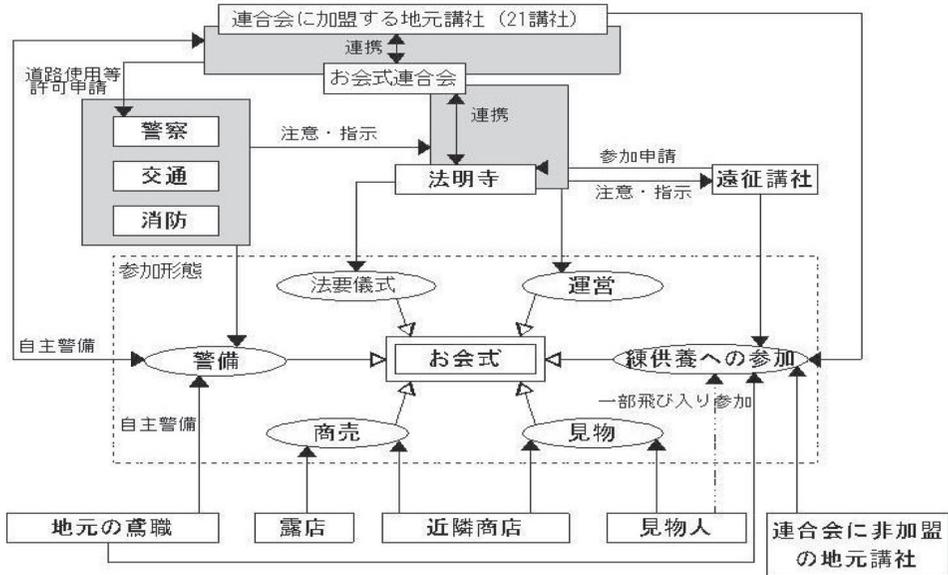


図3 お会式にかかわる組織の関係図



a) 近隣店舗ではお会式用品も扱う



b) すずきみみずくの販売露店

図4 近隣店舗や境内の店舗の様子

のできる場が創り上げられている。

4.4 準備作業を通した人の繋がり

御会式は当日だけではなく、事前準備にも時間をかけて行われる。表5には、主な事前準備の担い手を整理したものである。

御会式連合会は、毎月1回程度集まりを持ち、一年かけて御会式に向けた準備を行う。円滑に地域で行われるような外部との調整もある他、練供養に欠かせない万灯の材料や、個人で購入することとなる団扇太鼓の購入のとりまとめを行っている。練供養の万灯の花の飾りの部分は、柳の枝と和紙を購入し

て、講社のメンバーが製作する。和紙を折って花を作成し、それを柳の枝につけ、更にそれを万灯につけるものである。

各講社での準備作業は、数か月前から始まる。各講毎に万灯に飾り付ける花を製作し、万灯を御会式の期間設置するためのお借り屋を組み立てる作業を協働で行う。主な準備段階での作業を、担う人と、当日の練行列への参加者として、参加者層は大きく異なる。

各講社で、17日18日の練り歩きに参加をする講社のリーダーである講元等が中心になっている。御会式連合会という組織がある。御会式連合会では、

表5 お会式準備等への参加者

＜御会式の準備等とそれに関わる人達＞				講ごとの活動			
				10月初め	10月初め	前日・当日	直後～1週間程
日時	通年で毎月1回	9月末の土日	祭り期間直前	10月初め	10月初め	前日・当日	直後～1週間程
内容	定例会	全体会議	太鼓の練習	万灯組み立て	花折・花開き	料理	万灯解体
関 わ る 人 達	法明寺関係者	○	○	○			
	連合会幹部	○	○	○			
	警察・交通・消防等		○				
	講のリーダー	○	○	○	○	○	○
	各講の男性				○		○
各講の女性					○	○	
各講の子供			○		○		

当日に向けての段取りを行い、円滑に参詣が進むよう法明寺関係者を含めて協議を行う。ほぼ毎月一回の集まり、準備を進める。9月の末頃には、警察関係者等も入った、練行列や屋台の出展等に伴う道路の利用や安全面に関する協議も行う。

各講のメンバーが集まり祭りに向けた準備を開始するのは、10月に入ってからである。最も時間と労力を要する作業が万灯の製作であろう。灯火を放つ本体部分の組み立て、桜の花を見立てた薄紙で花を作成し、購入しておいた柳の枝に、飾りつける。更に、この万灯を期間中設置しておくお借り屋と呼ばれる小屋を組み立て、御会式期間中には、講の仲間とこの近辺で飲食するのであるが、そのための料理をつくり世話をする仕事もある。

このように老若男女が、様々な形でかかわることで、御会式の準備が進められることが特徴の一つでもある。本来宗教行事ではあるものの、日常疎遠になりがちな都市型コミュニティの中でも、人が繋がり、特に地域の中で様々な役割を発揮する機会が提供されている。

5. 御会式における人の繋がり空間的広がり 御会式連合会

図5には、各講社のお借り屋の位置を示す。お借り屋は空き地や駐車場を利用して設置され、各講社の受付や宴会場所は、テントを設置したり、店舗を利用したりして設けられる。

鬼子母神の境内へ向かう表参道や住宅の密集した鬼子母神堂・法明寺の近隣に多いことがわかる。お借り屋の設置されている場所は、比較的大きな通り沿いである。明治通り、目白通り、不忍通りといった幹線道揃い、鬼子母神表参道沿い、そして鶴巻通り沿いに多い。狭隘道路沿いでは、大きな万灯を動

かすのが難しいことや、人の集えるスペースの確保のしやすさを考慮しているためと考えられる。これは結果的に観光客に対して、万灯を見物しやすい環境を提供しえていることと言える。

また設置場所は、雑司ヶ谷の町内だけでなく、南池袋町内や高田町内にも広がっている。鬼子母神・法明寺のごく近い場所だけのものではなく、町・区の境を越えて、地域住民をつなぐきっかけとなっている行事であると言える。

6. 奉納を通じた地元の繋がりが

6.1 奉納数の概要

各講社には、寄付金等が御会式に合わせて納められる。これを奉納と呼び、奉納者の名前がお借り屋近くに掲示される。ここでは、このような奉納者の店舗や居住地と、各講社とのつながりを確かめ、見えにくい地元講社の人の繋がりの一面を確かめることとする。

このような奉納者の公表を立札を使って行っている講は13講社あり、このうち12講社についての分析を行う。対象となるのは、青葉睦会、表参道睦会、鵬輦、大門宮元講、高田若睦、千登世若睦、東部睦会、燈友会、東池母神会、南池一若葉睦、目白台睦会、目白睦鬼神会である。

奉納者には大きく商店等の事業所と個人とがある。12講社全体に対する奉納数をみると(表6)個人による奉納が事業所等による奉納者数の二倍ほどある一方で、複数の奉納を行っている個人は事業所に比して少ない。つまり、事業所の類には、各々のネットワークで特定の団体に奉納する組織が多いものの、約2割の組織については、複数の講社に奉納をしていることがわかる。しかしその多くは2講社程度であるが、5講社以上行っているものもある。



A・東池母神会 B・鵬輦 C・南池一若葉睦 D・鬼熟連 E・燈友会 F・目白睦商工睦
 G・目白睦鬼神会 H・波羅門 I・青葉睦会 J・大門宮元講 K・東部睦会 L・雑二講
 M・表参道睦会 N・目白台睦会 O・高田若睦 P・千登世若睦 Q・高田南睦

図5 万灯をつくる講社のお借り屋の場所

表6 12講社に対する奉納先数別奉納者数の合計

	1	複数講社への奉納者数							合計
		2	3	4	5	8	10	小計	
事業所等	246	42	11	6	2	1	1	63	309
個人	590	10	3	0	0	0	0	13	603
合計	836	52	14	6	2	1	1	76	912

表7 講社毎の奉納者数*

	個人	事業所等	計	個人割合**
青葉睦	40	9	49	4.4
大門宮元講	102	23	125	4.4
目白台睦会	87	22	109	4.0
高田若睦	56	35	91	1.6
燈友会	79	51	130	1.5
千登若睦	38	29	67	1.3
鵬輦	40	33	73	1.2
表參道睦会	39	37	76	1.1
東部睦会	34	34	68	1.0
東池母神会	10	18	28	0.6
南池一若葉睦	27	71	98	0.4
合計	552	362	914	1.5

*2010年10月17日～18日調べ：この期間に順次歩いて確かめることのできた数のみが示されるので、調査時間後に掲示された奉納者については、計上されていない。

**個人割合：個人割合は、事業所に対する個人奉納者の割合である。(個人/事業所)

5 講社以上の奉納のある組織は、酒屋 1 飲食店舗 1 金融機関 2 組織である。

全体として、金融機関を中心に多くの講社への協力を行っていると言えるものの、多くの組織では、地域の一員として特定の講とのつながりを強く持って、御会式を迎えていると言えよう。

講社別に奉納者数を確かめると、表7のようになる。個人の奉納者と事業所の割合は講社毎に大きく異なる。表7右欄は、個人奉納者の事業所に対する割合を算出したものであるが、青葉睦のように、個人の割合が非常に大きいところと、東池母神会のように事業所の割合が大きいところとで、大きな差がある。事業所とは言っても、地域に居住しながらの所謂自営業といった組織も多いので立場としては個人に近いとも言えるが、規模や、中心的な講社構成員のいる場所により、異なるものと推測される。

伝統的な行事であっても、商店街の地域の活性化が生計に直接影響を与えるような人が中心となって運営されている地域もあるが、雑司ヶ谷の御会式では、住宅地が中心となるようなところで、住民自身によって運営が支えられていることがわかる。普段の生活は別の場所に勤務したりして、町には寝るために帰ってくる人も多いかもしれないと考えられる中で、個人の奉納者が多い講社があるということ

は、一人の住民として地域の中にネットワークを持つ人が数多くいることを表しているものと考えられる。

6.2 奉納者の地域的な広がり

奉納者の名前を、可能な限りゼンリン住宅地図(2008年版)に基づいて、プロットした結果が図6である*6)。

いずれの講社も、ある程度地域的なまとまりがあることが地図上で確認できる。つまり地縁的色彩の強い集団であると言える。しかしその中でも奉納者の立地に広がりのある講社と、比較的近隣のみでまとまっている講社とがあることがわかる。目白台睦会、千登世若睦、高田若睦、表參道睦会といった講社は比較的一本の通り沿いに奉納者が集中している。一方鵬輦、燈友会、目白睦鬼神会、南池一若睦といった講社の奉納者は、一街路沿いだけでなく、少し奥まった場所等からの奉納者も多く、面的な広がりが確認される。更にその中でも、鵬輦や南池一若葉睦、目白睦鬼神会といった講社への奉納者は、かなり広い地域に散在している。近隣関係を越えたネットワークを築いている。

御会式では、日常的に顔を合わせる可能性のある近隣同士での連携が多い。現代の生活では、近隣に住んでいるから必ずしも日常的に顔を合わせ交流をしているとは限らない中で、御会式を通して、仲間としての協力関係を築ききっかけとなっている。

7. まとめ

本稿では、御会式の概要を示した上で、係る組織についての整理を行った。さらに奉納を通して見えてくる御会式を通した人の繋がりの地域的な広がりを確認した。

御会式では、講社の連携組織(御会式連合会)が中心になって運営を行っているが、その講社には、多くの非正規のメンバーも含めて係ることで、多くの参加者のある練供養が実現していることがわかった。つまり、中心的メンバーだけが、イベントの主役なのではなく、普段は特に話し合いや準備に参加をしないような、メンバーであっても、地域の一員としてまつりに参加をしていることがわかった。地域の仕事のなことへの貢献度の低い人であっても、御会式の練行列を見るだけでなく、見られる側に参加していることとなり、地域の一員としての気持ち



図6 講社への奉納者の場所

を高める機会となっていることが推測される。

また講社の拠点は広く雑司ヶ谷地域に広がっていることがわかった。お借りやの設置場所は、スペースのゆとりとの関係もあり、また大きな万灯を通り出すことのできる比較的便利な場所に設置されているということを鑑みても、鬼子母神堂周辺のごく一部の場所だけではなく、雑司ヶ谷の町境を越えて広く点在していることがわかる。そして数多くの居住者だけでなく、事業所が奉納を通して様々な講社に係っていることが明らかになった。奉納者のリストを確かめることで、他地域では商店街等が中心ともなりがちな大がかりなイベントが、当該地での営利を伴わないような居住者中心の地域にも広がりがあることが確認された。

註記

- * 1) 参考文献1) 2) を大正大学弓山達也教授がゼミなどを通してまとめている。
(<http://www.kanko.metro.tokyo.jp/kanko/ota/event/honmonji.html>)
- * 2) 池上本門寺の御会式については以下のサイトを参考にした。
(<http://honmonji.jp/00index/index2.html>)
- * 3) 参考文献4) に、このような指摘がされている。(成川文雅, 日蓮信徒ハンドブック, 日蓮宗文書布教部発行, p.261, 1980年を参考にしている。)
- * 4) 鬼子母神の説明は、ウェブサイト上にもある。日蓮聖人は御書のなかで「十羅刹女と申すは10人の大鬼神女, 四天下の一切の鬼神の母なり。また十羅刹女の母なり, 鬼子母神これなり」(<http://www.kishimojin.jp/history/index.html>)と書いていとのことであり、信仰の対象として大切にされている。なお、法

明寺の鬼子母神は1561年に目白台の清土鬼子母神(別称, お穴鬼子母神)境内にある三角井戸から出土した像を崇めるために建立された。

- * 5) これまでにインタビューを3回行ってきたが、その中で毎回この点については指摘している。御会式連合会の全大会では、本番直前にも、宗教行事であることや、御会式の目的を確認してはいるものの、実態として信者でない人が楽しみとして参加していることについては、容認しているとのことである。
- * 6) 事業所については全ての場所を確認することができたが、個人については、ゼンリン地図上にフルネームで名前の掲載されている人についてのみ、マッピングを行った。

参考文献

- 1) 弓山達也: 祭りのダイナミズム—雑司ヶ谷鬼子母神万灯練供養の研究, 大正大学1998年度比較宗教論Ⅱ<祭りの意味と役割>報告書(1999)
- 2) 弓山達也: 祭りの宗教性—雑司ヶ谷鬼子母神万灯練供養の研究2, 大正大学1999-2000年度Ⅰ類人間探求<現代人と宗教>報告書(2001)
- 3) 山崎美佳, 後藤 久: 雑司ヶ谷の街並に関する研究2: 鬼子母神信仰の盛衰が街並に与えた影響について, 日女大紀要(家政), **49**(2002)
- 4) 和田春江: 万灯行列に関する研究—日蓮宗の御会式における万灯行列のお囃子と纏の動きについて—, 東京女子体育大紀要, **35**(2000)
- 5) 皆川智子, 葉袋奈美子: 雑司ヶ谷研究 その1—道路の構成と住宅更新—, 日女大紀要(家政), **58**(2011)